

● ホウチャクソウの花の観察

スギ植林の林床に一面に広がっているのはホウチャクソウの群落です。

ホウチャクソウは漢字では“宝鐸草”と書きます。

宝鐸（ほうちゃく、ほうたく）は寺院の四隅の軒下に吊るされる鐘のことで、風鐸とも呼ばれ、邪気を払うとされています。

宝鐸には鐘の下に「風招（ふうしょう）」と呼ばれるものがぶら下がっているタイプとそれが見られないタイプがあります。



風招つきの宝鐸（逗子市・神武寺）



風招がない宝鐸（成田市・新勝寺）

ホウチャクソウにもこの2つのタイプの宝鐸のそれぞれに似た花があることをご存知でしょうか？

雌しべの先（柱頭）が花冠から突出しているタイプの花と突出していないタイプの花です。

2つのタイプの花をつける個体では染色体数に違いがあり、前者は2倍体、後者は3倍体であることがわかっています。



ホウチャクソウの花（2倍体）とそのつくり
柱頭が外観で見える
雌しべは花被片より長い



ホウチャクソウの花（3倍体）とそのつくり
柱頭は外観では見えない
雌しべは花被片より短いとか同長



よく見かけるのは 3 倍体の方で、ここにも 3 倍体しかないと思っていたのですが、先ほど 2 倍体の花を見つけました。花が開いていたのは 2 株だけでした。花のサンプルをお見せします。

※ ほかにもあるかもしれないとみんなで探してみましたが、まだ蕾の状態のものが多く、開いている花は 3 倍体のものばかりで、2 倍体の花は見つかりませんでした。

2 倍体と 3 倍体では花以外にも特徴の違いがいくつかあることがわかっています。3 倍体に比べて 2 倍体は小型で結実率がずっと高い。両者とも長い地下茎を伸ばしてその先端や途中で子株をつくる栄養繁殖を行います。2 倍体の地下茎は 3 倍体のものと比べると細くて長い。といったことなどです。

以上のような特徴から、3 倍体は光が比較的弱い環境でも安定した群落を形成・維持しているのに対し、2 倍体は 3 倍体が優占するような環境では共存できず、より生存に適した場所へと拡散していく傾向が強いと考えられます。

【後日談】

花が咲き進んだところを見計らって、一週間後、再び現地を訪れ、2 倍体の花を徹底的に探し回りました。

その結果、一面に広がっているハウチャクソウ群落を構成しているのは 3 倍体でしたが、優占部分を外れた一画（5×3m ほどの範囲）にだけ 2 倍体の集団があることを確認しました。

（中安均）